

# 下部消化管(大腸)内視鏡検査・治療を受けられる患者様へ

## 【検査目的】

大腸にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がんなど）を発見し、適切な治療方針を考えるために行います。

## 【検査方法・経過】

1. 検査を受けていただくためには大腸の中を空にするため、下剤・腸内洗浄薬の服用をしていただき、浣腸などさせていただきます。
2. 排便が透明な液体（便カスがない）の状態になれば検査可能です。
3. 検査の前に、楽に検査が受けられるよう鎮静剤の注射や腸の動きを抑えるための注射をさせていただきます。
4. 内視鏡を肛門から挿入し、大腸内をまんべんなく観察します。
5. 必要ならば組織の採取を行い、ポリープが発見された場合には内視鏡を使ってポリープ切除を行い、病理組織検査を行います。
6. 組織の採取やポリープ切除の際、痛みを伴うことはありません。
7. 検査終了後は鎮静剤の効果がある程度とれるまで外来処置室で休んでいただきます。
8. ポリープ切除を行った場合、出血などの合併症にそなえ1泊2日間の入院をさせていただきます。

## 【注意事項】

- ・ 検査前日の夕食は消化のよいお粥、うどん（海藻類が入っていないもの）を食べていただき、それ以降は眠る前までに水分（牛乳、乳製品、果汁の入ったもの以外）を多めにお飲みください。
- ・ 緑内障、前立腺肥大症、心臓病、薬のアレルギーのある方は事前に申し出てください。
- ・ 検査当日は朝食を食べず、指示された薬以外は服用せずに来院してください。（当院以外の病院などで処方されたお薬を服用中の方はお申出ください。特に血液を固まりにくくする薬を服用中の場合、検査数日前からの休薬が必要となります）
- ・ 下剤・腸内洗浄薬の服用の方法については別途ご説明いたします。
- ・ 鎮静剤の効果には個人差がありますが、半日くらい眠気やフラフラ感が続くことがありますので検査当日は、車・バイク・自転車の運転をしないでください。（ご自分で運転されてこられた方は鎮静剤の使用が出来ない場合があります）
- ・ 鎮静剤の使用を希望されるか否かを、同意書にご記入ください。
- ・ 検査当日は検査後も飲酒、喫煙はご遠慮ください。
- ・ ポリープ切除を行った場合、合併症の予防のため約10日間は飲酒、スポーツ、旅行はご遠慮ください。

## 【合併症について】

日本消化器内視鏡学会調査によると、大腸内視鏡検査において合併症の発生は0.04%、死亡率は0.0005%、ポリペクトミーでは0.19%の合併症の発生が報告されています。主な合併症については以下のものです。

- 穿孔：腸の壁に穴が開いてしまうことです。ポリープ切除を行った際に発生し、外科的手術が必要となる場合があります。
- 出血：組織の採取やポリープ切除を行った際に発生し、止血処置や止血剤の投与が必要となる場合があります。
- 前処置に関するもの：血圧低下、呼吸抑制、アレルギー反応などが起こることがあり、緊急処置が必要となる場合があります。

帰宅後に出血、腹痛などございましたらすぐご連絡ください。検査治療は細心の注意を払って行います。また万一合併症が発生した場合、最善の方法で対処いたします。何かご不明な点などございましたら遠慮なくお尋ねください。